

JR小樽駅前広場の再整備方針（案）等

■第2章 まちづくり方向性（①JR小樽駅前広場に求められる役割）

■上位・関連計画の整理

計画名	略称	目標年次	策定期月	駅前広場に関する方針等	
上位計画	第7次小樽市総合計画	総計	R10	小樽駅周辺等の機能・魅力の向上	
				魅力ある都市景観の保全	
				並行在来線の経営分離に伴う広域交通等のあり方検討	
関連計画	第2次小樽市都市計画マスターplan	都市	R21	交通結節点機能を高めるための機能更新	
				小樽らしい都市景観の創出	
				多くの人を呼び込み交流するための空間確保	
				潤いと活力に満ちたまちづくり	
	小樽市人口ビジョン（令和2年改訂版）	人口	R6	快適な歩行空間の確保	
	北海道新幹線新小樽（仮称）駅周辺まちづくり計画	新駅	—	小樽駅と新小樽（仮称）駅を結ぶ交通手段の強化	
	小樽市地域公共交通網形成計画	網計	R7	R1.5	交通結節点の利便性強化
	小樽市緑の基本計画	緑計	R2	H16.7	公共公益施設の緑化の推進
	小樽市景観計画	景観	—	H21.2	小樽駅から海・港を、海側から小樽駅を見通すことができる等、小樽独特の景観を保持
	第二次小樽市観光基本計画	観光	R8	H29.4	小樽駅からの眺望や有形文化財といった観光資源を組合せた演出 交通アクセスについての情報提供
	小樽市交通安全計画（第10次）	交安	R2	H29.3	自動車・歩行者等の異種交通の分断された道路交通環境の形成
	小樽市高齢者保健福祉計画	高齢	R2	H30.3	公共交通のバリアフリー化
	第3期小樽市障害者計画	障害	R8	H29.3	公共交通のバリアフリー化の推進
	小樽市強靭化計画	強靭	—	R2.11	災害において交通施設として機能を発揮するための機能及び安全性向上

■求められる役割の設定

役割1 交通空間としての機能確保

交通空間は、「交通結節点」としての機能を担う空間であり、JRやバスなどの交通手段相互の乗り換えや歩行が安全かつスムーズに行える空間とする

内容

関連計画

- (1) JR小樽駅周辺を含めた歩車分離・バリアフリー化による、安全で快適に歩行できる空間の確保
- (2) 乗り継ぎ環境の改善による利便性の向上
- (3) 新幹線新駅や観光資源との交通アクセスを含めた利便性の高い交通ネットワークの形成
- (4) 並行在来線の経営分離に伴う広域交通等のあり方を考慮した交通環境の形成

役割2 環境空間としての機能確保

環境空間は、「都市の広場」としての機能を担う空間であり、人々の憩いや情報収集の場としての「交流機能」や「情報発信機能」、歴史や風土といったその都市の特徴を踏まえ、駅舎等との調和に配慮された都市の顔となる「景観機能」を有した空間とする

内容

関連計画

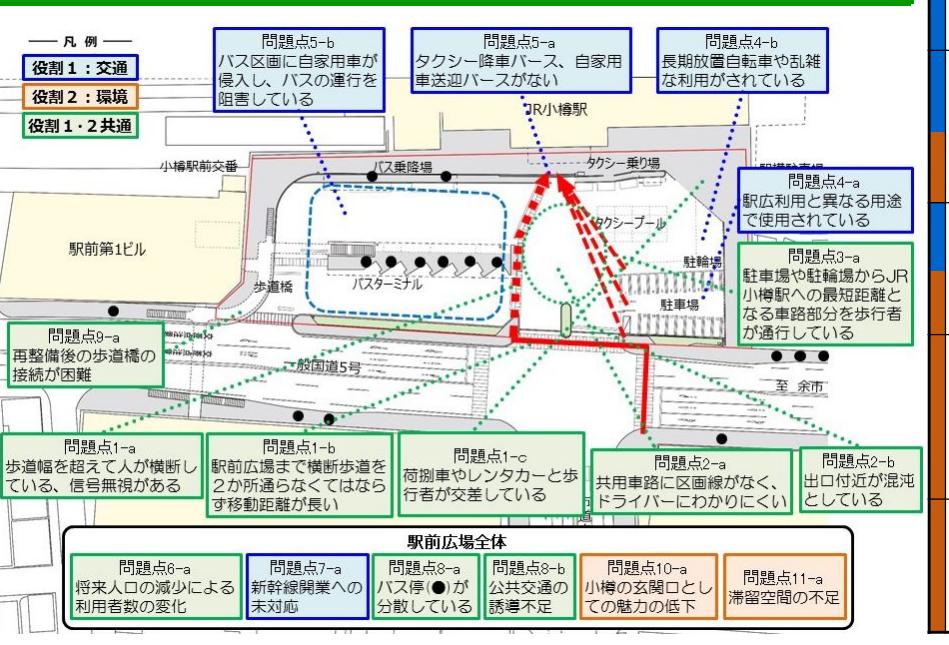
- (1) 中心市街地における人の移動を活発にするため、歩行者が安全かつスムーズに移動できる、快適な歩行者動線の確保
- (2) 街並みなど地域の特性を生かしてまちの魅力を高め、多くの人を呼び込み交流するための空間の確保
- (3) JR小樽駅からは海・港を、海側からは山並みやJR小樽駅を見通すことができるなど、他都市にはない小樽独特の景観の保全
- (4) 交通アクセスについての情報提供など
- (5) 災害において交通施設として機能を発揮するための機能及び安全性の向上

■第3章 JR小樽駅前広場等の現状（②JR小樽駅前広場等の現状整理、③周辺環境等の整理、④JR小樽駅前広場に対する市民意識の把握）

項目	現状および社会情勢の変化	
A.駅前広場(S51整備)	空間構成	駅広面サイド及び中央に歩行者通路、バリアフリーに対応したスロープ有 中央の横断歩道（幅2m）は委任信号で制御 中央の横断歩道とバスの車路は2か所で交差 バス・タクシー・駐車場区画で各々分離され、共用の車路で国道5号と交差 (共用の車路は区画線による誘導なし) 人が集まるようなオープンスペースなし 公共交通の総括的な案内はJR小樽駅舎内の1か所となっている
	施設概要	駐車場:20台、自転車等:150台 バス乗降場:8台、タクシー乗り場:4台、タクシープール:16台
	関係施設	JR小樽駅、レンタカー施設、交番
	利用者	JR乗車人員 9,459人/日(2018年度(H30年度)) 交通量 駅前交差点出入台数: 3,731台/12h(2017年(H29)平日) 人口 115,621人(2019.3現在) 推計人口 2030年(R12): 89,561人、2040年(R22): 69,422人 高齢者人口 46,342人(2019.3現在) 推計 2030年(R12): 39,352人, 2040年(R22): 34,403人 高齢化率 40.08%(2019.3現在) 推計 2030年(R12): 43.9%, 2040年(R22): 49.6% 乗用車保有率 1976年(S51): 16.2%, 2017年(H29): 53.5%(北海道) 観光入込客数 国内: 6,992千人、海外: 267千人(2019年度)
	バス停	駅前広場内: 8箇所、国道5号: 8箇所(小樽駅前)、中央通: 1箇所(小樽駅前通)
	歩道橋	第1,2ビルからバスターミナルへの連絡通路設置(S50設置)
	都市の顔	JR小樽駅舎は国の有形文化財に登録(2006年(H18)) 海や駅からの景観は市都市景観賞を受賞(2009(H21))
	市街地連携	JR小樽駅を起点として3号埠頭までの歩行者骨格軸(※)を形成
	新幹線開業	2030年度(R12年度) 札幌延伸予定(新小樽(仮称)駅も同年度開業予定) 新幹線開業後、並行在来線はJRから経営分離
	※JR小樽駅を起点とし第3号埠頭までの歩行者動線を歩行者骨格軸として表現	

主な意見(R2市民アンケート・H30まちづくりシンポジウム等)

- ・駅舎前の歩行空間が狭く、ゆとりと潤いが不足
- ・隣接する小樽駅前第1ビルの老朽化、バス・タクシー・歩道・駐輪場・駐車場の混在非耐震
- ・広場内の歩行者の乱横断
- ・歩行者と車両の動線の輻輳
- ・信号待ちによる渋滞の発生
- ・タクシー降り場や一般車の乗降場がない
- ・雑然とした自転車の放置 等



求められる役割と現状から見た問題点(案)	役割/現状
1 利便性と安全性が低い歩行者動線	役割1(1) 役割2(1) 役割2(5) 現状A
a.歩行者の通行量が多く、歩道幅を超えて車イスや歩行者が横断していること、また、信号無視があり安全性を低下させている b.第3ビル側の国道からJR小樽駅やバスターミナルを利用する場合、駅前広場まで横断歩道を2か所通らなくてはならず移動距離が長い c.荷物車やレンタカーが歩行者と交差している	
2 輻輳する車両動線	役割1(2) 役割2(5) 現状A
a.共用車路に区画線がなく(多数のルートがあり明示できない)、ドライバーに分かりにくい b.広場からの出口の間口が広いため、右左折車・直進車のレーン取りにおいて、出口付近が混雑している	
3 歩行者の乱横断による車両通行の安全性低下	役割1(1) 役割1(2) 役割2(1) 役割2(5) 現状A
a.駐車場や駐輪場等からJR小樽駅への最短距離となる車路部分(歩道外)を歩行者が通行しており、車両通行の安全性を低下させている	
4 駐車場・駐輪場の利用方法	役割1(2) 現状A
a.駐車場は短時間利用が主であるが、駅又は広場内施設の利用用途とは異なる用途で利用されている b.駐輪場は無料であることもあり、長期放置自転車や乱雜な利用がされている	
5 送迎車乗降場・タクシー降車場の未整備	役割1(2) 現状A
a.タクシー降車場、一般車乗降場がないことから、同車が駅正面に停め、広場内のバス等の通行を阻害している b.バス区画に一般車が侵入しバスの通行を阻害している	
6 将来人口の減少等による利用者数の変化	役割1(1) 役割1(2) 役割2(1) 現状A
a.供用開始時より乗用車保有率、観光入込客数が増加しており現状では手狭となっている。2040年には本市の人口が現在の約2/3となるが、インバウンド等の観光客数が一定程度増加する可能性がある	
7 新幹線開業への未対応	役割1(3) 役割1(4) 現状B
a.現駅前広場はスペースが限られており、新たなバスのアクセスへの対応や、並行在来線の経営分離による交通環境の変化の受け入れが困難である	
8 わかりづらいバス停の配置と誘導不足	役割1(2) 役割2(4) 現状A 現状B
a.バス停が分散しており、利用者(特に観光客)にとってわかりにくい状況となっている b.公共交通を総括的に案内する施設が不足	
9 広場の再整備による歩道橋の存廃	役割1(1) 役割2(1) 現状B
a.駅前広場を再整備することにより、歩道橋の接続が困難となる場合もある	
10 小樽の玄関口としての魅力の低下	役割2(2) 役割2(3) 現状A 現状B
a.駅前広場は整備から45年が経過しており、機能や施設配置が車両や観光客の増加といった社会情勢の変化に対応しきれておらず、小樽の玄関口としての魅力が低下している	
11 滞留空間の不足	役割2(2) 役割2(5) 現状A
a.駅前広場が狭く、歩行者骨格軸の起点としての休憩や待合のスペース、一時的避難スペースが確保されていない	

■第4章 JR小樽駅前広場の問題点および課題（⑤JR小樽駅前広場の問題点、⑥JR小樽駅前広場の課題）

■第5章 小樽駅前広場の再整備方針
(⑦基本コンセプト・再整備方針)■第6章
再整備基本計画